

関東学院大学 人間共生学部

コミュニケーション学科

共生デザイン学科

プロジェクト科目紹介



「プロジェクト科目」とは

学生たちが大学内にとどまらず、実際に外に出て、社会の中での様々な課題を見付け出し、その解決法を考えていくという学習のかたちです。

画期的な試みとして、3年生の春学期は他の科目を履修することなく、このプロジェクトだけに集中して取り組めるようなカリキュラムになっています。長期滞在などを伴うプロジェクトなども、これによって可能になります。

人間共生学部では、15のコミュニケーション・プロジェクトと、16のデザイン・プロジェクトの計31のプロジェクト科目が運営されています。これら31のプロジェクト科目の中から1科目以上を選んで取り組んで行きます。

科目名	担当者	テーマ	ページ
コミュニケーション・プロジェクト1	新井 信一	中長期のインターンシップ	1
コミュニケーション・プロジェクト2 & 3	松下 倫子	「学生が受けたい授業の企画」と「開講」	2
コミュニケーション・プロジェクト4	楠 勝範	訪日外国人との映像と同時通訳機器を使っでの交流体験 朗読劇上演と朗読舞台記録映像撮影体験	3
コミュニケーション・プロジェクト5 & 6	黒崎 真由美	英語圏の大学での語学研修プログラム(A)(B)	4
コミュニケーション・プロジェクト7	山田 留里子	中国・北京大学での中国語・中国文化研修	5
コミュニケーション・プロジェクト8	施 桂栄	中国文化についての調査・体験(江蘇省・江南地域)	6
コミュニケーション・プロジェクト9	奥田 博子	インターンシップ	7
コミュニケーション・プロジェクト10	石井 充	Webデザイン・CGデザイン実習	8
コミュニケーション・プロジェクト11	Jason Moser	Learning to Master Popular Visual Technology	9
コミュニケーション・プロジェクト12	折田 明子	インターネットによる情報発信・広報の計画立案・実践	10
コミュニケーション・プロジェクト13	佐野 予理子	働く人の意識や行動についての調査プロジェクト	11
コミュニケーション・プロジェクト14	道幸 俊也	問題発見と課題解決の実践	12
コミュニケーション・プロジェクト15	川村 覚文	アイデンティティと文化の政治に関するフィールドワーク	13
デザイン・プロジェクト1	神野 由紀	高梨農園における食文化のデザイン・プロジェクト	14
デザイン・プロジェクト12	二宮 咲子	自然と共に生きる暮らしのデザイン・プロジェクト	15
デザイン・プロジェクト2	讃井 純一郎	三菱電機デザイン研究所との連携による 商品デザインプロデュース実習 ～冷蔵庫を対象としたインタビュー調査～	16
デザイン・プロジェクト8	佐々 牧雄	三菱電機デザイン研究所との連携による 商品デザインプロデュース実習 ～冷蔵庫を対象としたエスノグラフィ調査～	17
デザイン・プロジェクト3	立山 徳子	カンボジア伝統絹緋再生プロジェクト訪問	18
デザイン・プロジェクト4	水沼 淑子	地域遺産の保全活用プロジェクト	19
デザイン・プロジェクト5	山崎 稔恵	ファッションショーで魅せる横浜スカーフ	20
デザイン・プロジェクト7	藤本 憲太郎	イベント会場の構成と装飾	21
デザイン・プロジェクト6	佐野 慶一郎	環境学に基づく海外交流の実習	22
デザイン・プロジェクト10	海老根 秀之	プロモーションビデオ制作	23
デザイン・プロジェクト9	兼子 朋也	空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)	24
デザイン・プロジェクト11	日高 仁	空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)	25
デザイン・プロジェクト13	淡野 哲	ストップモーション・アニメ制作 コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ	26
デザイン・プロジェクト14	小林 和彦	作品展示の企画と実践	27
デザイン・プロジェクト15	兼子 朋也	三浦に遊びの学校をつくる！	28
デザイン・プロジェクト16	日高 仁	三浦に遊びの学校をつくる！	29



コミュニケーション・プロジェクト1

中長期のインターンシップ

人間共生学部
コミュニケーション学科

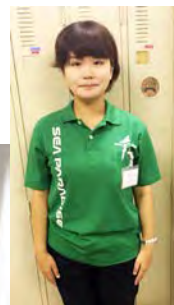
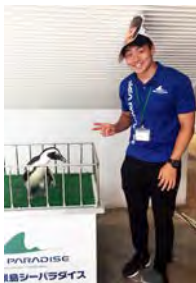
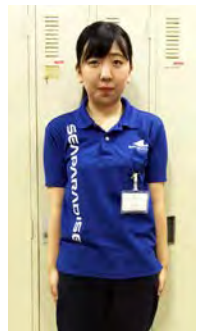
プロジェクト概要

「120時間以上のインターンシップ」
課題を設定しながら、学外の組織で、実際に社会人の一員として仕事を体験します。



株式会社 関学サービス

金沢区通所介護事業者連絡会



萬屋本名
KAMAKURA HASE
est. 1706



SHONAN
湘南しんざん

つたえたい、大切なこと
くらいの友

2019年度より実施

担当教員:新井 信一(あらいのぶかず)

関東学院大学



「学生が受けたい授業の企画」と「開講」

人間共生学部

コミュニケーション学科

プロジェクト概要

学校の授業科目はあらかじめ用意されていて、学生は選択できては創造できないのが、これまでの大学カリキュラムでした。

このプロジェクトは、学生が自分たちの受けたいと思う授業を、自分たちで企画し、実現させます。

まず、各自が関心を持っているテーマについて詳しく調べて全員の前で発表します。15回分の授業を企画しなければならないので、単に「おもしろそう」というだけでは、行き詰まります。かなり深く掘り下げて調べる必要があります。履修者全員でディスカッションを重ねて、複数の提案の中から、ひとつの授業を組み立てます。

次に、現在提供されている学部・学科のカリキュラム全体を見渡して、同じような授業が開講されていないことを確認します。また、カリキュラムの中のどの分野の授業なのかについても検討します。

実際に授業として開講するためには、講師の候補者探しと出講交渉が重要になります。まずは、自分たちが受講している科目の中で、開講したい授業に関連する科目を選び、担当の先生に相談します。その先生が引き受けてくださることもあれば、別の先生を紹介してくださることもあります。

お忙しい先生方にご迷惑にならないような時間を選び、きちんとした企画書や挨拶状を持参して出講のお願いに上がります。文書作成能力、メールや電話、対面でのコミュニケーション能力が求められます。

学生のみなさんが悩みながら真剣に取り組んだ結果、2018年度は、3名の先生方に全5回の授業を開講していただけることになりました。テーマは「パフォーマンスと緊張」です。

秋学期開講のコミュニケーション・プロジェクト3では、この授業の受講生を集めるために、学内で広報活動を行うとともに、実際に授業を受講し、講師の先生方のお手伝いを行います。

ご招待されています

授業のお誘い
講義名：パフォーマンスと緊張

講師
伊藤賀永(本学教育学部教授)
大槻茂久(本学非常勤講師・神奈川大学女子サッカー部監督)
武野顕吾(臨床心理士、ボールパークコーポレーション)

授業概要

- ・緊張が心理に与える影響
- ・応援によるパフォーマンスの変化
- ・サッカーのルーティンがもたらす緊張緩和

日付	時間	教室	講師名
11/9 (金)	2 限	(理)2-504	武野先生
11/16 (金)	4 限	(理)2-504	伊藤先生
11/23 (金)	2 限	(理)2-504	武野先生
11/30 (金)	4 限	(理)2-504	大槻先生
12/7 (金)	2 限	(理)2-504	武野先生

この授業は人間共生学部コミュニケーション
プロジェクト2で企画しました。

2018年秋学期に開講予定の授業の紹介チラシ。学生が作成しました。



訪日外国人との映像と同時通訳機器を使っでの交流体験 朗読劇上演と朗読舞台記録映像撮影体験

人間共生学部
コミュニケーション学科

プロジェクト概要

イギリスからの訪日外国人とWeBase鎌倉で
映像と同時通訳機器を使っでの交流。

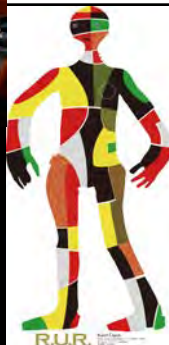
(右の一連画像)

カレル・チャペック作のSF戯曲「R. U. R.」
(Rossum's Universal Robots: ロッサム万
能ロボット会社) を朗読劇として横浜市社
会福祉センター・ホールでの上演と朗読舞
台記録映像撮影。

(下の一連画像)



360°カメラで撮影した横長画像



360°カメラで撮影した横長画像





英語圏の大学での語学研修プログラム (A) (B)

人間共生学部

コミュニケーション学科

プロジェクト概要

英語圏の大学での4～6週間(A)、または8～10週間(B)の語学研修プログラムです。期間中は、現地の家庭にホームステイ(LU、UON)、あるいは大学の寮に滞在(SU、CCSU)します。英語の学習はもとより、海外で「生活する」ことによって、異文化世界を自分の目で見て、体で感じる学びを得ることができます。異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションを通じて生まれる相互理解の重要性を認識するとともに、母国である日本を見つめなおす好機になります。

留学先は、下記の4大学です。

- ・【LU】 リンカーン大学 (ニュージーランド)
- ・【UON】 ニューカッスル大学* (オーストラリア)
- ・【SU】 サンウェイ大学 (マレーシア)
- ・【CCSU】 セントラル・コネチカット州立大学* (アメリカ)

*コミュニケーション学科のダブル・ディグリー・プログラムの相手校です。コミュニケーション学科の学生がいずれかの大学で学び、双方の卒業要件を満たすことで、2つの大学の学位を同時に取得できます。



ニューカッスル大学 (オーストラリア)
シドニーから北170キロのニューカッスルは、大学の街。ホームステイをしながら自然あふれるキャンパスで学び、週末はシドニー散策で、すっかりオージー(Aussie)の生活を満喫。英語でのプレゼンテーションもできるようになりました。



リンカーン大学 (ニュージーランド)
ラグビー大国のニュージーランドでは、語学研修はもちろんのこと、英語+ラグビーのプログラムも用意されています。



サンウェイ大学 (マレーシア)
学生寮はプール付きのリゾートホテル並み！でも最も宿題の多い留学先でした。



セントラル・コネチカット州立大学 (アメリカ)
大学はニューヨークとボストンの中間に位置し、クラスの遠足では魅力的な二大都市を訪問しました。

中国・北京大学での中国語・中国文化研修

人間共生学部

コミュニケーション学科

プロジェクト概要



中国の首都にある北京大学で、午前中は、少人数形式で本場の中国語と中国の歴史や文化を学び、午後は、北京にある万里の長城、天安門、故宮を訪問したり、京劇鑑賞もすることによって、午前中に学んだ中国の歴史や文化を肌身で体感できるプロジェクトです。

⇒2018年度は20名の参加がありました。

さらに、中国国際放送局訪問を実施し、現場のアナウンサーの方々から、日中経済文化交流の歴史を直に学ぶという体験学習によって中国語学習意欲の向上を図り、卒業後の進路に対するイメージを明確にしていきます。

⇒帰国後に、就職に有利な資格である“中国語検定試験”3級と“HSK（漢語水平考試）”4級に合格した学生もいます。



你好！



北京大学西門



谢谢！



北京大学内・未名湖



北京大学中文系の教室で
—A班とB班—



修了試験風景



皆で注文した
日中友好のケーキ



北京大学中文系の前にて



中国国際放送局訪問



プレゼンテーション風景



プロジェクト報告会



担当教員：山田 留里子(やまだ るりこ)



中国文化についての調査・体験(江蘇省・江南地域)

人間共生学部

コミュニケーション学科

プロジェクト概要

社会のグローバル化に伴い、文化の多様性を知ることが求められ、異文化を理解する力を身につけるのも必要とされている。

そのため、本プロジェクト科目では、中国東南部江蘇省の江南地域（揚子江文明の一地域）を対象とし、常州大学日本語学科の学生と合同で中国の歴史や人文、社会、人間行動などの視点から、江南地域の文化について調査し体験的に学ぶことを目的とする。

関連知識の学習と研究テーマ・調査計画の策定から始め、2週間現地調査の実施、結果のまとめ・発表などを行うことによって、中国文化への理解を深めることが到達目標である。



文筆塔(常州市内・1500年前南北朝時代建造)。常州は、進士1,333名(科挙合格者)、状元(科挙の成績が全国一位の人)9名、のエリートを輩出した土地として有名、塔の頂に華やかな光が現れると、常州辺りで必ず状元が出るとの伝説も生まれたそうです。



常州大学日本語学科の学生と交流・合同学習



春秋淹城遺跡見学・調査(常州市)



山塘街古鎮見学・調査(水郷の街-蘇州市)



中国呉文化博物館・鴻山遺跡(無錫市)



惠山古鎮(無錫市・数百年から千年の歴史を持った古い町)

担当教員: 施 桂栄(し けいえい)



プロジェクト概要

一般社団法人 神奈川県情報サービス産業協会に所属する企業のなかで受け入れ先となる企業が2月ごろに決まる予定です。

詳細は公表時になりますが、当該企業の人事担当者による事前面接を実施する可能性があります。

2月ごろに受け入れ先となる企業からインターンシップ実施期間等の連絡が入ります。その際、メールにて連絡を入れてインターンシップ先となる企業等について調整を行っていきます。

日本データスキル 株式会社

期間：

2018年5月23日～30日
(9:00～17:35)

業務内容：

新入社員研修体験型インターンシップ。

アナザーウェア 株式会社

期間：

2018年7月16日～27日
(9:00～17:30)

業務内容：

IT業界セミナーの受講から始め、実際に営業担当と同行して営業活動に従事。



担当教員：奥田 博子(おくだ ひろこ)

2018年度

5つの企業から2018年2月中旬にインターンシップ受入表を送付され、各企業から提供された資料とURLを中心に企業情報検索をしたうえで次の4つの企業で5名の学生がインターンシップを行った。

株式会社 情創

期間：

2018年5月14日～18日
(9:00～18:00)

業務内容：

SE業務補助（ドキュメントや議事録の作成）、営業業務補助（見積書の整理など）。



シンポー情報システム 株式会社

期間：

2018年8月20日～24日（25時間）

業務内容：

IoT技術を活用した、新しいサービスの企画に参加することで、「情報業界で働くこと」への理解を深める。



プロジェクト概要

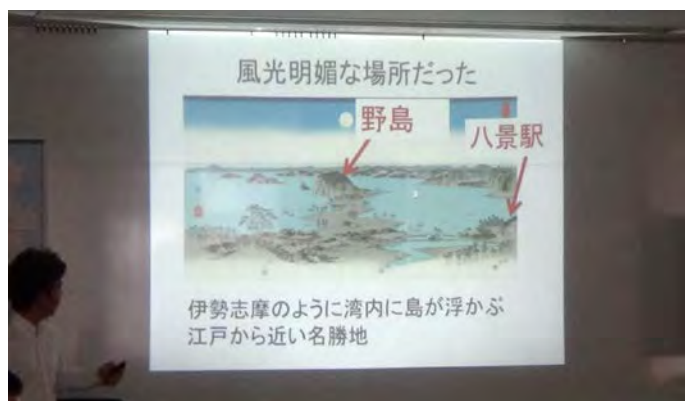
WebやCG・動画を用いたサイトや広告は、多くの人が目にしていると思います。本プロジェクトでは、効果的なサイトやCG・動画の作成を行うための基礎知識を身につけ、企業や地域コミュニティと連携して、Webサイトの作成や各種の発表を行いました。

まず、HTMLとCSS(カスケード・スタイル・シート)に関する知識を身につけます。これらを用いると、単にサイト等を作成することができるようだけでなく、作成したものの管理がしやすくなります。企業のWebサイトの運営に関して重要なことは、見栄えが良いことだけでなく、継続的に一貫したメンテナンスが行えることです。CSSに関する知識を得ると、外見的なものを内容と分離でき、個々人に合わせたきめ細かなデザインが容易にでき、かつ容易に管理できるようになります。

さらに、動画の作成・編集やCGを用いた加工等も必要に応じて行います。これらは既存のWebサイトに埋め込むなどのほか、各種発表を効率的に行うためのプレゼンテーションツールとしても活用できます。



地域の方々に前して区役所で発表



区役所で発表

具体的には、横浜市金沢区と連携し、鎌倉時代以来の長い歴史を有する金沢八景地区がどのように変わってきたのかを、江戸時代の浮世絵などと合わせてCGによる3次元表現を行う企画を立て、金沢区役所で発表をしてきました。

また、実際にWebサイトの作成を請け負う事業を行っている企業と連携して、企業が作成するWebサイトの改良を手伝うといった作業も行いました。

このように、実社会で役立てられる知識を身につけ、実際にそれを生かすところまでを経験してもらっています。時には地味な作業に耐えねばならない場面もありますが、そういった困難を乗り越えて何かを成し遂げたという経験は、大きな自信につながり、就職活動等でもアピール材料となります。



Learning to Master Popular Visual Technology

人間共生学部
コミュニケーション学科

プロジェクト概要

To learn how to use current digital tools and technology (smartphones, drones, GoPro's, 360° cameras) beyond a beginner level. Students work individually or in pairs/groups and plan a digital project around the Kanagawa area. The images shown here were all taken from student projects in 2018. Each project took over 90 hours of field work.

Using a smartphone to make a video



Learning to take professional photos with a just smartphone



Learning to fly a drone and shoot video with it



Learning to use a 360° video camera





インターネットを活用した 情報発信・広報の計画立案・実践

人間共生学部
コミュニケーション学科

プロジェクト概要

インターネットを活用して、読み手と発信者に有効な情報発信を実現するプロジェクトです。メディアの特徴、文章の書き方、プライバシー保護等について学んだ後、2つのグループに分かれて情報発信を実践しました。

学科広報グループでは、学外、特に高校生の方々を想定し、コミュニケーション学科についての情報発信を行いました。金沢八景駅から大学キャンパスまでの道のりを動画にしたり、キャンパス各所の写真をTwitterで発信するほか、学生や教員にアポイントメント取り動画コンテンツを作るなど、多様な情報を発信しました。

NPOグループでは、一般財団法人アカデミーキャンプと連携した情報発信を行いました。8月に子どもたちを迎えて開催するキャンプに向けての準備、また実際にキャンプに参加し参加者や活動内容の情報を発信しました。



Twitterでの動画発信（学科広報グループ）



Facebookでの情報発信（NPOグループ）



各キャンパスに足を運び、写真もたくさん撮影しました

アカデミーキャンプに参加しました

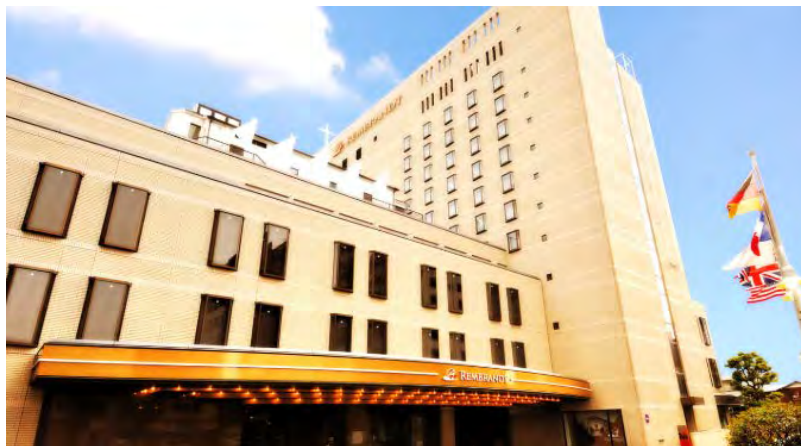


働く人の意識や行動についての調査プロジェクト

人間共生学部
コミュニケーション学科

プロジェクト概要

インタビューや行動観察のフィールドワークを通じて、質的調査の全過程を体験的に学ぶことが目的のプロジェクトです。身近なビジネス活動について心理学の観点から調査します。具体的には、接客の様子を観察したり、ホテルで働く人々にインタビューしたりすることを通して、勤労者の意識や行動を調査するとともに、消費者行動についても探り、考察します。



フィールドワーク先のレンブラントホテル厚木（本厚木駅から徒歩5分）

【プロジェクトの流れ】

1. インタビューや行動観察による心理学研究法について学ぶ
2. 3～4名の小グループに別れ、グループごとにテーマを設定する
3. 観察項目や質問内容等についてディスカッションする
4. 「レンブラントホテル厚木」にて、フィールドワークを行う
5. 調査で得られた成果をまとめる
6. 研究成果を発表し、振り返りを行う



観察の様子



インタビューの様子



サービスマナー講座



研究成果発表会

担当教員：佐野 予理子(さの よりこ)

問題発見と課題解決の実践

人間共生学部

コミュニケーション学科

プロジェクト概要

座学で前半はビジネスで必要となる問題発見や課題解決をテーマとしたビジネス書から学び、さらに質的研究のM-GTAの手法を学んだ。

その学んだ知識を実際に使う場面として、富士通グループ企業から現在抱えている問題についてプレゼンテーションを実施していただき、その内容から核となる問題を抽出した。そして、その問題について、インタビュー内容から仮説を構築し、その仮説からどのようなことが課題となっているのかをグループで議論、検討し解決案を策定した。

最終日には、企業側担当者の方たちに対してプレゼンテーションを実施し、質疑応答の時間を設けた。企業側からのフィードバックとして、これまで自分たち世代の捉えていた言葉の定義が今の若手社員世代には通用しないということが理解できた。今後、人材開発の場面においても有用なヒントを提示していただけたと、感謝の意を伝えていただいた。



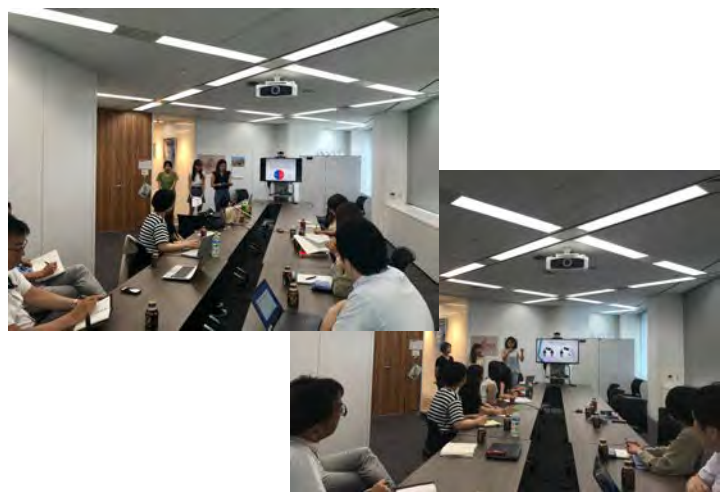
企業からのプレゼンテーション



プレゼンテーション資料から抜粋



本社(品川)受付にて



最終日プレゼンテーションの様子

担当教員: 道幸 俊也(みちゆき としや)



アイデンティティと文化の政治に関する フィールドワーク

人間共生学部
コミュニケーション学科

プロジェクト概要

本プロジェクトの目的は、共生の現場を理解し、経験することです。この目的を達成するために、沖縄でフィールドワークを行います。

なぜ沖縄なのか？沖縄は、いわゆる「チャンプルー文化」と呼ばれる、日本系と中華系、そして戦後はアメリカ系が融合する「多文化」融合的な文化圏を構築してきました。しかし、その過程の背後には、植民地主義や戦争などの近代の重い歴史が大きく影を落としています。そのため、沖縄の人々は、常に自らの存在について問わざるをえない状況に置かれてきました。様々文化を取り込み、共生してきた一方で、それは様々な権力的配置の中で、自らの望む形では決してなかった場合も、非常に多くあったのです。

この実習を通して、多文化共生の問題と可能性について、批判的に考察しました。それと同時に、自身の存在の礎となるアイデンティティの形成には、いかに文化が重要な役割を担っているのかを考えました。そして、アイデンティティの問題は今日における共生の問題を考える上で、欠かすことの出来ない原理であるという理解を、深めたのでした。

フィールドワークは約1週間続き、まずは沖縄の第二次世界大戦中の戦跡を巡り、沖縄に今も深い爪痕を残している地上戦の凄惨な模様を理解しました。その後、戦前の琉球王朝の時代のあり方や、戦後の沖縄の人々の生活がどのようなものであったのか、特に基地問題との関わりの中で、考える機会を設けました。中でも、沖縄市のコザでは、戦後沖縄の生き証人というべき方から貴重なお話を聞く機会などがありました。このように本プロジェクトは、参加学生の13人にとって、ありうべき共生社会のあり方について学びを深める、充実したものとなりました。



辺野古のフェンス



沖縄名物のソーキそば



嘉数高台の慰霊碑

担当教員：川村 寛文(かわむら さとふみ)



プロジェクト概要

現代の食の問題について、食文化に関わる知識を得た上で、現場の課題を発見して解決策を提案するプロジェクトです。2018年度の課題は、高梨農園の三浦大根や三浦キャベツなど、大きな野菜を出張販売で購入した人が持ち帰るパッケージの提案です。

1 事前調査&現地調査



高梨農園にてインタビュー



野菜を売る直売所

高梨農園は三浦市を中心に新鮮な野菜や加工品の製造、販売を行っています。インターネットで高梨農園について調べてから、現地の農場へと向かいました。高梨さんからお話を聞くだけでなく、直売所にも訪れました。

2 マルシェ見学&販売実習

都会で農産物の出張販売はどう行われているか、横浜の北仲マルシェ、東京の青山ファーマーズマーケットを見学しました。そこでのディスプレイや試食の方法などを参考にして、創造祭やかながわ屋で野菜や加工品を販売しました。



青山ファーマーズマーケット

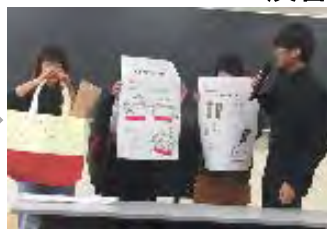


創造祭での販売

3 演習



モック（模型）作り



中間発表

大きい野菜のためのパッケージデザインが演習の課題。都市部でのマルシェで購入した大きい野菜を、どうやって持ち帰るか。高梨農園のイメージを考え、高梨さんとお客さん、両方の立場に立ってデザインを行いました。

4 企画案完成

最終プレゼンの成果物がこちらになります。





プロジェクト概要

都市の自然環境問題について、法政策・社会文化・ライフスタイルの視点での調査演習と現場での実習を通じて、自然共生に関する専門的な知識を習得。自然と共に生きる暮らしを実現するための新しいビジネスやイベントを、少人数グループで企画・提案します。2018年度のフィールドは株式会社高梨農園（三浦市）と名水湧く湧く農園（秦野市）です。

STEP1 文献・現地調査

高梨農園の栢山農場の現状と特徴

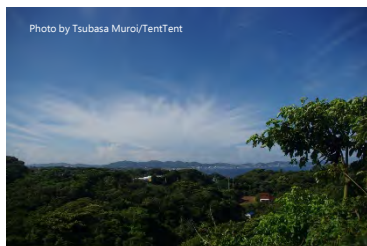


Photo by Tsubasa Muroi/TentTent



- ・栢山農場の畑ではキャベツの栽培を行っている。（2018年5月19日時点）
- ・畑の横には倉庫が設置されている。
- ・倉庫内の農機具は定位置が決まっていない。
- ・晴れている日は栢山農場に日陰はなく倉庫の屋根の下が日陰になる程度
- ・道路から少し離れて山の斜面側に面しており周りは山林のため樹木等に囲まれ自然豊かな。



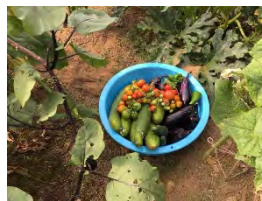
Photo by Tsubasa Muroi/TentTent

神奈川県三浦市の気候風土や農業と高梨農園・栢山農場の現状と課題を文献&現地調査

STEP2 現場で実習



専用区画で
20種の野菜を
無農薬で
育てています



播種や草取り・摘芯から収穫・交流イベントまで新しい農業の形【体験型農園】で実習

STEP3 企画プロポーザル



農園+カフェ



+イベント

+子育て



高梨農園が目指す「三浦らしい丁寧な日常の暮らし」を実現する【農園+〇〇】とは？



三菱電機デザイン研究所との連携による 商品デザインプロデュース実習

～冷蔵庫を対象としたインタビュー調査～

人間共生学部
共生デザイン学科

プロジェクト概要

現代社会では、商品デザインは付加価値の域を超え重要な「価値」となっています。「ユーザーにとっての価値はなんであるか？」を事前に調査し、デザイン情報を得てからデザインや企画の段階に移ることは、重要になっています。

プロジェクト2ならびに8では、三菱電機デザイン研究所との連携のもと、デザイン情報を得た上で商品デザインプロデュースを行いました。今年度のお題は「冷蔵庫」です。その内プロジェクト2では、評価グリッド法と呼ばれる手法を用いて実際にインタビュー調査を行いました。学生にとっては、本格的なインタビュー調査は初めての体験で苦労も多かったようですが、人々の生の声を引き出すことの面白さも感じてもらうことができたようです。

インタビュー調査の概要

各学生が2名を対象にインタビューを実施し、全体で27名の回答を得ました。主な調査内容は以下の通り。

1. 冷蔵庫の利用実態
2. 今の冷蔵庫に対する不満点、気に入っている点
3. こんな冷蔵庫が欲しい（夢の冷蔵庫）
4. こんなキッチン家電が欲しい（夢のキッチン家電）

最終成果物：商品企画提案の一例①

インタビュー調査の結果、またプロジェクト8で得られた観察調査の結果を踏まえ、学生一人ひとりが商品企画案を提案しました。その一例を紹介します。

「冷蔵庫の機能、全部使われてないんじゃない？」

調査の結果、企業側がせっかく提供した冷蔵庫のさまざまな機能が、ユーザー側には伝わっておらず無駄になっていることがわかったので、その対策を考えた。

提案1：機能・説明をもっとわかりやすくする。

- 機能名称をもっとわかりやすくする。
例：氷点下ストッカールーム⇒肉魚の凍らない部屋
- 機能や使い方を、庫内に、剥せるシールで貼る。
- マニュアル、説明書をもっと見やすくする。

提案2：本質機能に特化したウルトラシンプル冷蔵庫

- シンプルで、しかしサイズは大きな冷蔵庫を作る
- 無駄な機能を無くすことで、コスパも良くなる。
- 説明書もわかりやすくなる。

担当教員：讀井 純一郎(さぬい じゅんいちろう)

インタビュー調査で明らかになったニーズの構造(要約)

収納量について	たっぷり収納できる	
	収納効率が良い	棚の高さを細かく調整できる 無駄なスペースが無い
使いやすさについて	内容物が見やすい	上段奥が見にくい 庫内が明るい
	野菜室が真ん中にある	
冷蔵機能について	野菜室などの引き出しがひっかからない	
	腐らせずに保存できる	
機能の理解について	刺身を保存できる	
	鮮度を表示してくれるとうれしい	
扉について	賞味期限を管理してくれるとうれしい	
	どんな機能が付いているのかわからない	
見た目の良さについて	付いている機能がどんな役に立つのかわからない	
	チルドルームの使い方がわからない	
音について	手を使わずに開け閉めできる(タッチスイッチ)	
	開け放しにならない	
衛生管理について	開け放し警告音が聞こえる(うるさい)	
	壁と調和した色	
省エネに関するニーズ	引越しても大丈夫	無難な色 両開き
	シンプル	
その他のニーズ	かわいい(レトロ)	
	圧迫感が無い	
音について	ピンナップしやすい	扉に余計なものがついていない
	自動製氷は衛生上不安	
匂いについて	掃除が難しい(しにくい)	
	中身がこぼれない(ドアポケットに入れた物がグラグラしない)	
省エネに関するニーズ	トレイを外して洗いたい	
	運転音がうるさい	
その他のニーズ	ドア開放警告音がうるさい	
	臭いがする(しない)	
省エネに関するニーズ	脱臭機能が付いている	
	電気代が安く済む	
その他のニーズ	冷蔵庫の上を、調理台、家電置台として利用したい	
	価格が安い	
その他のニーズ	自動製氷機能について	

(回答者：主婦19名、単身者7名、シェアハウス居住者1名 合計27名)

三菱電機デザイナーからのコメント①



ただの思いつきではなく、デザイン情報を収集した後のアイディアで、しかも大胆なアイディアが多かった。「超シンプルな大型冷蔵庫」など、改めて気づかされたことも多い。

プロジェクトを終えての学生の感想①



プロジェクトの3ヶ月間は、大変厳しいものがありましたが、大学生活の中で一番濃い時期になったと思います。インタビュー調査やエスノグラフィ調査など、普段体験できないことを学ぶことができました。



三菱電機デザイン研究所との連携による 商品デザインプロデュース実習

～冷蔵庫を対象としたエスノグラフィ調査～

人間共生学部
共生デザイン学科

プロジェクト概要

現代社会では、商品デザインは付加価値の域を超え重要な「価値」となっています。「ユーザーにとっての価値はなんですか？」を事前に調査し、デザイン情報を得てからデザインや企画の段階に移ることは、重要になっています。

プロジェクト2ならびに8は、三菱電機デザイン研究所と連携のもと、デザイン情報を得た上で商品デザインプロデュースを実践しました。今年度のお題は「冷蔵庫」です。プロジェクト8では、エスノグラフィ（観察調査）による訪問調査を実施した上で商品企画提案をしました。

エスノグラフィ（観察調査）とは

社会学や文化人類学で行われていた調査法で、観察を中心としたフィールドワークにより様々な気づきを得られることが特徴です。ここでは対象を一般家庭の冷蔵庫に設定。デジタルカメラなどを持参して一般家庭（20～50歳代のご家庭5軒）を訪問し、冷蔵庫がどのように使われているかを観察させていただきました。



エスノグラフィ調査の実施状況



冷蔵庫の左側面には、紙がビッシリと貼られている

最終成果物：商品企画提案の一例②

エスノグラフィ調査の結果、またプロジェクト2で得られたインタビュー調査結果を踏まえ、学生一人ひとりが商品企画提案をしています。以下はその一例です。

提案の背景：

訪問した家庭では、冷蔵庫の設置されている場所が狭いことが気になりました。冷蔵庫のドアを開けると人が立つのもやっとです。また、保管されている食品が外からは見えないので腐らせたり、既に購入している食品をまた購入することが起きていました。

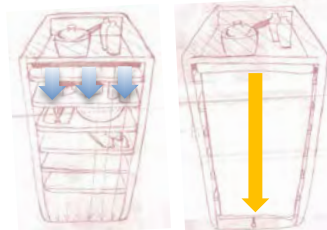


提案コンセプト：そもそも冷蔵庫にドアっている？

食品直取りできちゃう冷蔵庫

スーパーの食品売り場と同じような冷蔵庫。食品を見て直取りすることができる**ドアのない冷蔵庫**。

ドアの代わりに上からの送風によって断熱する。夜や外出する際はロール式のカーテンを下げて省エネに・・・。



三菱電機デザイナーからのコメント②

成熟商品において、アイデアを展開するのは大変だったと思う。「まだまだ冷蔵庫の企画は、やりようがありますよ」という学生からの強いメッセージを感じた。プロジェクトは期待以上の結果である。



プロジェクトを終えての学生の感想②

実際にユーザー宅を訪問して、エスノグラフィ調査やインタビュー調査を行いました。最初は緊張しましたが、どのご家庭も私たちに協力的で優しく接して頂き、おかげで様々な発見をすることができました。



カンボジア伝統絹緋再生プロジェクト訪問

人間共生学部
共生デザイン学科

プロジェクト概要

20年もの間つづいた内戦の歴史の中で、人の命も自然も失ってきたカンボジア。

そのカンボジアに古くから伝わる草木染めによる絹緋の織物を復活させたIKTT

(Institute for Khmer Traditional Textiles), 通称:「伝統の森」の壮大なプロジェクトを体験・学習しました。

失われた人の営み、村の姿、平和な暮らし、戦火により焼き払われ、地雷が埋められた大地を開墾し、草木や森を再生し、カンボジア全土から染めや織りの技をもつ人々を募って再生したこの村。今では世界のトップブランド・デザイナーが注目するほどの質の高い布が織られています。

私たちはこの滞在を通じて、自然環境と社会環境の両輪がそろって初めて生まれる持続可能な生き方を考え直しています。



村の女性たちは子どものそばで仕事します



草木や昆虫の巣から染め出した絹糸



内戦を乗り越え、復活した伝統の絹織物



絹のハンカチに染色体験した作品と

担当教員: 立山 徳子(たてやま のりこ)



プロジェクト概要

大学のある横浜市金沢区は歴史にも自然にも恵まれ、地域遺産について考えるには格好の題材である。そこで、プロジェクト科目として金沢区の地域遺産の魅力発信を取り上げた。

今回は、明治時代の和風建築である旧伊藤博文金沢別邸で、留学生を対象にした浴衣着付け体験を企画した。

浴衣や関連するものの準備、着付けしてくださる方の手配、留学生への周知、文化財であり、横浜市緑の協会が管理する会場との交渉や効果的なしつらえなどなど、多くの課題に学生自ら取り組み、当日を迎えることができた。一般向けに行なった団扇づくりワークショップも大好評のうちに終わった。

広報や、外部の方々との連携方法など、課題も多く見つけることができ、反省点も多々あるが、それこそが当該科目の意義であろう。



紙風船による会場装飾



団扇作りワークショップ



旧伊藤博文金沢別邸(上)と当日の様子(下)



浴衣着付け体験

担当教員:水沼 淑子(みずぬま よしこ)



プロジェクト概要

シルク博物館が毎年12月に開催するシルク振興のためのイベント(シルキー・ウィンター・フェスティバル)に参加します。横浜スカーフを用いたファッションショーの企画から制作・演出、出演までをおこなうことによって、横浜が世界に誇る捺染技術に関する理解を深め、シルク文化の継承と発展について考えることを目的とします。

シルク博物館を見学

学芸員より、養蚕から生糸誕生までのプロセスについて説明を受ける学生たち



●事前準備

シルクや捺染技術に関する基礎知識とイベント実施までのプロセスと方法を学びます



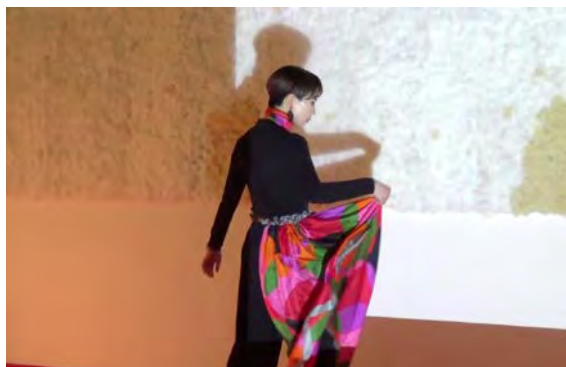
ファッションショーで使用する横浜スカーフ選び



横浜市内の捺染工場を見学

手捺染用のスクリーン型を洗浄する様子

●ファッションショー本番(2017年度のシーンから)
衣装デザイン、ショーの演出や構成、選曲、ランウェイの歩き方など学生らの創意工夫がみどころです



「たたむ」「つなぐ」「はさむ」「まく」「たらす」など、ごく基本的な手法でつくられた衣装の数々
終了後はまた一枚のスカーフに戻ります

●会場となる当博物館ホールの空間構成と装飾をデザイン・プロジェクト7が担当し、準備・実施において相互に協力します

担当教員: 山崎 稔恵(やまざき としえ)



プロジェクト概要

自分が考えたことが実際に形となって、目の前に現れたらドキドキする。

誰かのために、と考えてつくったお菓子やプレゼントが出来たら、心がときめく。喜んでくれたら、なお嬉しくなる。

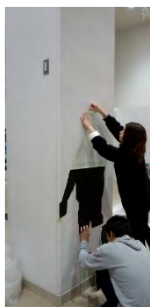
このプロジェクトは、いろいろな人と協力してつくり上げる楽しさと喜びを体感してほしいと思って企画したものです。

何をやるかと言うと、横浜シルク博物館が毎年開催する『シルキー・ウィンター・フェスティバル』のための会場構成。

そして特に、いくつかのイベントが続けて実施される日にプロジェクト5がおこなう「ファッションショー」の会場をデザインし、自分たち自身で設営します。

デザインする時は、ワクワクする。

それが実現したら、もっと素敵だ。



担当教員: 藤本 憲太郎 (ふじもと けんたろう)



プロジェクト概要

大学卒業後、社会人として活躍する中で、海外との交流は、重要です。本プロジェクトでは、海外交流の大切さとその基本について、習得しました。外国人(カナダ、中国、韓国)の講師も招聘して、海外の文化やマナーを学び、且つ英語によるコミュニケーション手法を習得しました。最終の体験学習として、各自、英語による研究課題(環境学)の報告会(プレゼンテーション)を学内、および、ドイツのTITK研究所で行い、意見交換を行いました。

なお、ドイツの研究所にて、学生達は最先端のリサイクル施設を見学することができました。学生達は、研究者の解説に熱心に耳を傾け、質疑応答が活発になされ、英語力とコミュニケーション能力の成長が認められました。



叢 暁波(そう ぎょうは)先生による中国文化の講義



クリストファー コルドニエ先生によるカナダ文化の講義



ドイツTITK研究所でのプレゼンテーション



ドイツ リサイクル施設の見学



欧州での古城散策



プロジェクト概要

数名でチームを組み、チームでプロモーションビデオを制作します。何をプロモーション対象とするかはチームで相談して決定します(商品、商店街、企業、イベント等)。

対象を決定したチームは、その対象について徹底的に調べて、プロモーションビデオの構成を検討します。必要であれば、対象の関係者と事前の打ち合わせも行います。構成がまとまったチームから、実際にプロモーションビデオの制作を行っていきます。制作したプロモーションビデオは、その対象の関係者に視聴して頂き、ご意見を頂きます。

プロモーションビデオの制作を通じて、社会との接し方や、映像による表現スキルの向上をめざすのはもちろんですが、制作したプロモーションビデオが、実際に活用されれば、大きな社会貢献となります。得られる達成感も大きなものとなるので、積極的な姿勢で取り組みましょう。



撮影の様子



ソフトクリームを食べるシーン



ファミリー目線の横浜のプロモーションビデオを制作



横浜の夜景



デート目線の横浜のプロモーションビデオを制作



編集作業の様子

担当教員: 海老根 秀之(えびね ひでゆき)



空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)

*デザイン・プロジェクト 11と同時履修としています。

人間共生学部
共生デザイン学科



神奈川県産木材でウッドデッキづくり

横須賀市追浜の空き家を再生し誕生したKGU空き家プロジェクトの活動拠点「おっぱまのま」にウッドデッキを製作するプロジェクトです。

森林研修 木材は神奈川県産の檜を使用しました。神奈川の森林、原木市場、製材工場を見学し、木が生育する現場から木材となるまでの一連の過程を現地で合宿しながら学びました。

DIY施工 測量、土工事、基礎工事、木材の加工・組上げの全ての工程を自分たちの手で行いました。20名のメンバーがそれぞれの特技を活かし、約3ヶ月の製作期間を経て、素晴らしいウッドデッキが完成しました。





空き家再生プロジェクトの実践(横須賀・三浦地域)

*デザイン・プロジェクト 9と同時履修としています。

人間共生学部
共生デザイン学科



お披露目を開催しました

ウッドデッキが完成し、お世話になった神奈川県森林再生課を始めとした関係者の方々や、地域の方々を『おっぱまのま』にご招待し、製作お披露目会を行いました。

お披露目会のイベントとして、美容師さんをお招きし、ウッドデッキで散髪してもらう空ノ下美容室や、メンバーによるポージングイベントも開催しました。

地元で取れた梅をベースとした食べ物やカナッペなど、様々なおもてなしの料理を提供し、学生との交流の場としてゆっくりとした時間を過ごしていただきました。



ストップモーション・アニメ制作

コマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶ

人間共生学部 共生デザイン学科

担当の淡野です

プロジェクト概要

クレイ造形を主体としたコマ撮り映像制作に必要な造形・撮影技術を学ぶプロジェクト実習。特別講師として映画「ノーマン・ザ・スノーマン」シリーズで知られるトップアニメーション・クリエイター八代健志監督に依頼。また八代監督率いる映像CMプロダクション太陽企画「TECARAT(テカラ)」で合同・集中演習授業を行った。現地では3日間の集中実習として各自「鳥」を制作し、その鳥を使用して実際の機材によりアニメーション制作を行った。その他、八代監督の作品上映、CMや映像制作についてのレクチャー、また映像業界へのリクルートについてご講演いただいた。



八代監督の代表作



スタジオ



ストップモーションの
細かな動きを出す為の関節



制作する道具がズラリ！



スタジオでの実技



完成した学生たちの作品



作品を固定します



撮影状況を確認！



全員での撮影に臨みます



最後に皆で記念撮影！

担当教員：淡野 哲(あわの てつ)



作品展示の企画と実践

人間共生学部
共生デザイン学科

プロジェクト概要

「自分達で作った作品を、自分達で考えた展覧会に、自分達の手で展示する」というコンセプトです。展覧会タイトルや会期、設営スケジュール、広報戦略、会場構成や会場に掲示する挨拶分、備品と予算など、展覧会に関係する様々な要素について、学生達が話し合いながら作業を進めていきます。

プロジェクトに参加した学生が制作してきた作品は、「イラスト」「映像」「ゲーム」という、ジャンルも展示形態も異なるものでした。これらの作品を一つの会場で共生させるため、会場を下見したり、お互いの作品を見せ合って説明したりしながら、会場構成を考えました。

イラストを入れる額の大きさや材質、映像やゲームを展示するコンピュータの配線、ゲームを操作するためのコントローラーまで、作品を魅力的に展示するための備品も、学生自身が選定しています。

広報に使用するポスターとポストカードの他、会場で配布する案内冊子は、印刷会社に印刷と加工をお願いしました。紙の種類や厚さを決めて、入稿用のデータを作成するなど、デザインの現場では日常的に行われている業務の一部を体験しました。

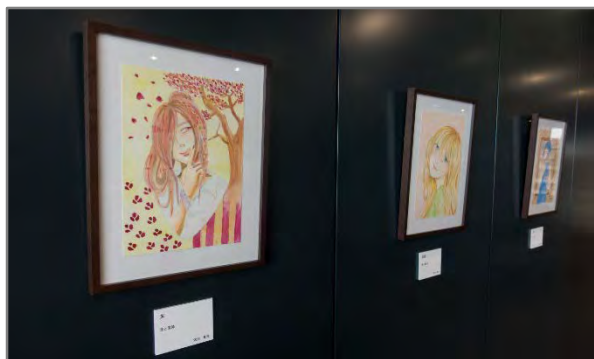
作品や作品説明文を破損しないように梱包して発送し、自分達の手で設営した経験は、作品との向き合い方に変化をもたらす事でしょう。



展覧会ポスター



展示設営完了！



イラスト作品



ゲーム作品

担当教員：小林 和彦(こばやし かずひこ)



三浦に遊びの学校をつくる！

*デザイン・プロジェクト 16と同時履修としています。

人間共生学部
共生デザイン学科



自作したシェルターに宿泊する

このプロジェクトは、三浦地域の魅力を多方面から体験リサーチしながら、三浦三戸の農家さんの敷地にシェルターを自作して、実際に泊まるというワークショップ形式で実施しました。将来的には、この場所に「遊びの学校」をつくることを目指しています。

自作シェルターは資材を主に近所のホームセンターで調達し、およそ一日半で製作しました。4チーム（計12名）の個性豊かなシェルターが立ち並ぶ光景は、かわいらしく、また壮観でもありました。そこで二泊するわけですが、強い風が吹き荒れ、夜中に激しい雨が降るなど、過酷な天候のもと試練のワークショップとなりました。

それに負けず、雨・風対策を施しつつサバイバルした学生には、「棲まうこと」「遊ぶこと」という「生きること」の根源に立ち返る、貴重な機会になったのではないかと思います。



ピンクのベッドからつくり始めた女子3人チーム。透け透けの囲いですが大丈夫？雨が降ってもベッドの下に避難して2日間の宿泊を完遂しました。ベッドの下で着替えだってメイクだってできます。

グランピングがテーマの女子3人チーム。不織布の屋根は開放感があって気持ちいい。天蓋風の蚊帳もかわいらしい。ガーランドの飾付けでテンションを上げています。雨が降っても熟睡しました。



個室シェルターを3棟並列させた男子3人チーム。三角フレームにすだれの外壁。その名も「とんがりくん」。落ち着くパーソナルスペースから外を見ると風景が三角に切り取られて、とても綺麗。

鶏小屋風シェルターをつくった男子3人チーム。掘立て柱で頑丈です。シェルター裏側と天井を防虫ネットにして開放感を演出しましたが、降雨には勝てず。翌日雨対策を施すも、またもや雨に打ち負かされて退散。



三浦に遊びの学校をつくる！

*デザイン・プロジェクト 15と同時履修としています。

人間共生学部
共生デザイン学科

最終日には交流会を開催しました

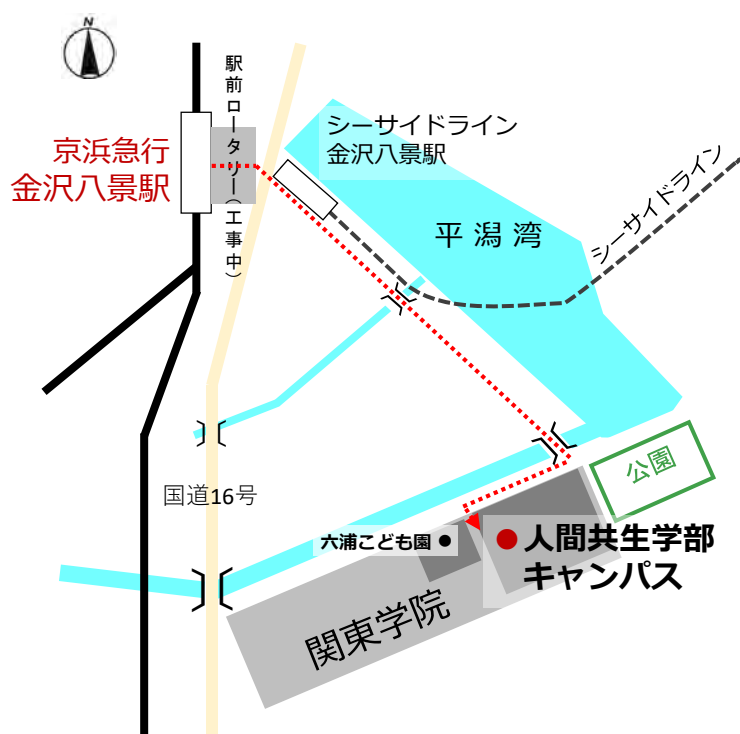
最後の晩は、遊びの学校の発案者、三上さんを囲んで、交流会を行いました。仮設シェルターの脇に、仮設のダイニングテーブルをつくり、地元食材のバーベキューを楽しみました。食後には、メンバーによるライブパフォーマンス。小さなビレッジのような、面白い空間ができていました。敷地のポテンシャルを実感することができ、今後の「遊びの学校」具体化に向けた一歩になったと思います。

これ以外にも、事前学習や、作業の合間に三浦の海辺や三崎の下町を散策したり、サイクリングを楽しんだり、海で泳いだりと、三浦地域の魅力を満喫した5日間でした。





関東学院大学



お問い合わせ先：

関東学院大学 学部庶務課（人間共生,教育,栄養,看護学部）

TEL：045-786-7760

住所：〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1

E-mail：ninshomu@kanto-gakuin.ac.jp

- 人間共生学部の最寄り駅は、京浜急行の金沢八景駅で、快特で横浜から約20分、品川から約40分です。
- 海の公園や八景島を通る横浜新都市交通金沢シーサイドラインも利用可能です。
- 金沢八景駅からは京急バス「八8系統 関東学院循環」で約5分（関東学院東下車）です。